2024.06.14

研究戦略セミナーvol.2を開催しました

国際展開



研究戦略部門は、2024年3月4日（月）、大岡山キャンパス内にて研究戦略セミナーvol.2「研究の国際評価向上に役立つ個人的変革と組織的変革の策～サロンスタイル・ディスカッション～」を開催しました。

研究戦略セミナーvol.2では、「研究の国際評価向上に役立つ個人的変革と組織的変革の策」というテーマの下、ニューヨーク州立大学バッファロー校の増田直紀教授を講師に迎え、日本人研究者が研究成果の国際的なプレゼンスを高める方法から紐解いて議論しました。増田教授は、海外で研究ポジションを勝ち取り研究室を運営している経験から、グローバルな研究人脈形成の重要性、そのためにすべきこと、研究プレゼン能力の重要性について語りました。さらには海外研究機関の優れているポイント（悪いポイント）についても語り、考えるヒントを提供いただきました。当日の資料（学内限定）もご参照ください。

研究戦略チーム（加藤URA）が研究戦略セミナーvol.1, 2企画に至った問題意識は以下の通りです。

- 日本のトップ研究者層の論文の質は世界トップレベル、と欧米研究者も認めるにも関わらず、その引用数は北米の主要大学研究者の半分ほどである事実はショッキング。
- 研究は、それが伝わることで世界のさまざまなセクターに価値を生む。伝えた研究に対する科学コミュニティーから高評価が研究者のやりがいを高め。その高評価は研究資金獲得を高め、コラボオファーの可能性を生む。
- そのように得られる研究資金やコラボ機会は研究を加速し、研究の幅を広げる。そしてその結果さらに質の高い研究成果が生み出される、との繰り返し発展が、研究の好循環のスパイラル。

セミナーに参加した望月助教（物質理工）は、実際に自分が出版した論文の内容は米国の著名ラボ発の論文とほぼ同じ内容だったながら、view数も引用数も半分だったとの実体験を語り、「伝わっていないだけでないか」と感想を口にしました。

各研究者が実施可能な研究プロモーション活動として、自身の研究成果を知らしめたい世界の研究者に、論文を送信して確実に読ませることが重要との議論がなされました。

また増田教授は、国際学会への積極的な参加と英語での発表の重要性を改めて指摘した上で、「国際学会へ参加するだけではなく、世界の研究者と積極的に会話し知人を作り、外国のコミュニティの一員になることによって、自身の研究成果の認知度を国際的に向上させることにつながります」と強調しました。一方で、自分の学生を含め、そのような積極的コミュニケーションの戦略は、日本人だけでなくアジア系の研究者（大学院生含め）は苦手だとの感想を共有されました。

日本と世界の違いについての議論では、米国の大学が日本の大学より働きやすい一つの大きな理由として増田教授は、学内運営に関する仕事が適切に権限委譲されていて全員の同意を得る必要がない、という点を指摘ました。また、日本では未だに講座制が多いが、米国では若くして独立できる仕組みが確立し（PI

制)、それが大学として若手研究者を育てる重要なポイントであると述べました。

大学の研究者がどのような軸で評価されるべきか、との議論では、米国では「国際性」というのは強調されない（そもそも国際的)。しかし、日本は国際活動の強さを評価基準に入れれば、国際活動強化のきっかけとして良いのではないかとの発言もありました。さらには、分野に依らない大学のミッションとしてやはり教育は重要であり、重要な評価項目であることは確かだとの議論もありました。

研究戦略部門では、研究者の国際的プレゼンスの向上に向けて今後もセミナーを企画していきます。セミナー開催の予告などは、Slackチャンネル「#an-ura-研究支援情報と相談窓口」でもお知らせしています。ぜひチャンネル登録してください。

なお、今回のセミナーの動画（学内限定）をご覧いただけます。



担当URA

加藤　英之 Kato, Hideyuki

研究資金の獲得　異分野融合研究　国際展開